

平成28年度 公益財団法人目黒区国際交流協会事業方針

真の国際社会に

国際化が喧伝されてから半世紀以上の年月が経過しますが、平成27年は、日本社会が新しいステージに立った年になりました。1月19日の日本政府観光局発表は、訪日外客数が1,973万人を超え前年比47.1%増加したと伝えています。国別では、中国が107.3%増で500万人に迫り45.3%増の韓国とともに400万人を初めて超えました。ロシアを除くすべての地域で二ケタの伸びとなっています。また、出国数は、1,621万人で、45年前の1970年以来訪日外客数が出国日本人を上回りました。外に出て行く国際化から、国内が国際社会へと移っていく年となりました。目黒区の状況では、平成28年1月1日の人口は271,469人で前年比は100.6%と微増ですが、外国籍住民は7,775人105.2%と高い伸びとなっています。

協会では、平成27年度目黒区の支援を受けて、「多文化共生区民フォーラム」を開催し、多くの区民の参加を得て論議を進めて来ました。一方、東京都も2月16日に、「東京都多文化共生推進指針」を策定し、2020年オリンピック・パラリンピックの開催とその先の社会を見据えての取り組みが始まりました。MIFAは、「人々の国際相互理解を促進し、多様な文化を認めあい、人間の絆をはぐくむ豊かな地域社会の形成に寄与する」の実現に向け、目黒区及び会員の皆様とともに着実に事業の一層の拡充に努めてまいります。

【事業方針】

1 多文化共生区民フォーラムの活動を活かして

多文化共生区民フォーラムには、従来からMIFAの会員として活動をともにしてきた人が沢山参加しましたが、その一方で、フォーラムで初めてMIFAを知った方々も多く、交流の輪が広がりました。皆さんからは、報告書を提出して終わりとするのではなく、継続して多文化社会が誰にとっても安心で、それぞれが活躍できる社会づくりに、継続して携わりたい意向が示されました。今年度を、報告書にある「めぐろ、まちのデザイン」の実現に向けた初年度となるよう取り組んでいきます。

2 来外客の期待に応えるために

急増する訪日外客数が示すように、目黒を訪れる来外客が、まちの賑わいをもたらしています。一部の人々だけでなく、まちの色々な場において、外国人旅行客との交流が図られることが大切になってきます。地域の企業や商店会などと関係を密接にして、共に取り組んでいくことが求められます。商工まつりへの参加や東京都のおもてなし事業に取り組むなど、地域社会全体で、来外客の期待に応えていけることを目指します。

3 区内大使館と協力して

区内には14の大使館が存在します。国際交流フェスティバルにおいて、多くの区民の方々との交流が図られています。また、地域の学校にゲストティーチャーとして招かれ、子どもたちとの交流も行われています。しかし、多くの区民にとって、まだ大使館が身近な存在にはなっていません。大使館と協力し、さらなる交流を図り、豊かな地域社会の実現を目指します。

平成28年度

事業計画書

公益財団法人目黒区国際交流協会